

登録コード	E4653900	開講年度	2026				
授業科目	美術教育論				担当教員	大島 賢一	
英文授業名	Theories of Art Education				副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・3時限	対象学生	2-4年生
講義室	教育N104講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				美術教育を支える理論の検討を通して、美術教育の目的と意義を正しく理解することができる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				美術教育の理論的背景について、正しい知識を得る。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	美術教育についての基礎的文献、資料の精読を行う。						
(5)授業計画	第1回：オリエンテーション 本授業の課題理解 第2回：学習指導要領を改めて読む 第3回：美術教育の史的展開 第4回：新教育運動の中の美術教育 自由画教育運動をめぐって 第5回：新教育運動の中の美術教育 自由画教育運動に対する反論を確認する 第7回：平和のための教育としての美術教育 第8回：美術を通しての教育とは 第9回：創造主義的美術教育についての検討 第10回：戦後美術教育運動の諸相 第11回：鑑賞教育についての議論 第12回：美術館等社会教育施設との連携について 第13回：造形遊びという哲学 第14回：美術教育は何を目指す、どのような教育か 授業アンケート *テストは行わず、最終課題としてレポートを課す。						
(6)成績評価の方法	・ 授業での発表 30% ・ 各回に課されるレポート 40% ・ 期末課題として課されるレポート 30% 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・ 発表については、文献の内容について正しく理解していることが認められれば「水準にある」。文献の内容を踏まえた上で、発展的な問題への認識が見られれば「やや上にある」。そうした問題に対して、自分なりの解決を示そうとする様子が見られれば「かなり上にある」。そこで示される解決が、合理的なもので、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。 ・ 各回および最終課題レポートについては、授業の内容について正しく理解していることが認められれば「水準にある」。講義内容を踏まえた上で、発展的な問題への認識が見られれば「やや上にある」。そうした問題に対して、自分なりの解決を示そうとする様子が見られれば「かなり上にある」。そこで示される解決が、合理的なもので、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。						
(8)事前事後学習の内容	授業については、指示された文献についての精読によって進める。したがって、受講にあたっては、事前の予習として文献を読むことに加え、発表担当者はレジュメ等の資料を作成する必要がある。また、授業後にはレポートを課す。						
(9)履修上の注意	教育実習に関わる補講については授業中に適宜指示する。 美術科指導法基礎を履修していることが望ましい。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	メール予約で随時。N213 oshima@shinshu-u.ac.jp 026-238-4141						
【教科書】	文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 美術編』『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』						
【参考文献】	授業において都度指示する。						